

2 教室環境②「刺激への配慮」

集中しやすく、落ち着いて学習に取り組みやすい環境にするには、教室の刺激の量を減らす配慮が必要です。児童の注意をそらしたり大切な情報を分かりにくくしたりする余分な刺激(情報)を取り除き、必要な情報に集中できる分かりやすい教室環境をつくる必要があります。

配慮したい刺激として、①目障りとなる視覚刺激、②不要で不快な聴覚刺激、③影響し合いがちな人的刺激が挙げられます。

1 目障りな視覚刺激の排除 ～見た目もスッキリとした黒板周り～

教室で学習する場合、最も重要な部分は、前面の黒板の周囲です。

どの子も集中できたり、落ち着いたりするためには、黒板への掲示物を必要最小限にします。

黒板の脇にある、時間割表や給食当番表、日直の仕事等の掲示物は、必要な時以外はカーテンなどで隠します(図 2-1)。余分な刺激を取り除き、「今必要で大切な情報」がわかりやすくなるため、落ち着きが増すとともに、集中しやすくなります。

また、子供によっては壁の汚れが気になり集中できない児童がいます。壁の汚れを落としたり隠したりすることで安定する児童もいますので、意識してあげたいものです。



図 2-1 「カーテンで目隠しした黒板周り」

～教室は心の鏡～

教室環境の美化や机の整頓などは授業への集中を高めるためにも重要です。

教室が乱れてきた時には、児童生徒の中に何らかの問題がひそんでいる可能性があります。「服装の乱れは心の乱れ」という言葉もありますが、教室環境を維持・向上させることは、児童生徒の「心の乱れ」をなくし、学びの場として相応しい環境にするための第一歩だと考えられます。



<ユニバーサルデザインの視点>

「①全ての児童生徒が参加できる授業」

→安心して参加し、授業に集中するためには、第一に不安材料や集中を妨げる要因の軽減又は排除が不可欠です。特に視覚や聴覚など感覚刺激に過敏な児童生徒もいるという前提で教室環境を見直したいものです。

2 聴覚刺激の軽減

椅子や机が床に擦れる音を軽減するために、使い古したテニスボールを脚に取り付けます（図 2-2）。

気が散りやすい児童生徒への対応だけでなく、耳からの情報に頼る視覚障害の児童生徒のために静寂な環境を提供するためにも有効です。



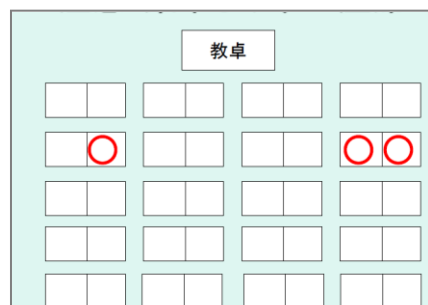
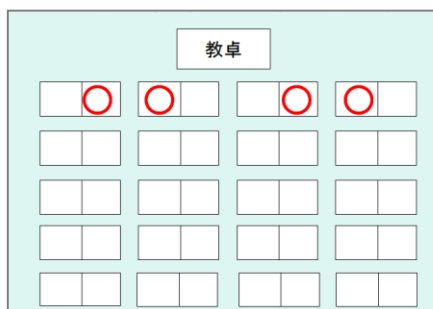
図 2-2 「テニスボールで音を軽減」

3 座席の配慮 ～人的環境～

教室の座席の位置によって、刺激の量は大きく異なってきます。それぞれの座席にどのようなことが余計な刺激になるのか踏まえておくことが重要です（図 2-3）。

また、お互いに刺激し合いやすい児童生徒同士の座席を離す配慮も必要です。

〈集中しやすい座席〉



- ・他の児童生徒からの刺激を受けにくい。
- ・教師から個別のサポートを受けやすい。

- ・刺激が少なく、教師の指示を聞き逃しても、周囲の行動を見本にできる。

〈集中しにくい座席〉



- ・窓際は校庭の様子や物音に、出入口の近くは廊下の人々の気配に注意をそがれやすい。
- ・特に両端の最前列の席は、黒板の方を向いていても身体が半身になりやすく、他の生徒の様子が視界に入りやすい。

- ・余計な刺激自体は少なく、教師の目も届きやすい。その反面、本児が多弁・多動の傾向がある場合、それが他の児童の刺激となり、教室全体が騒々しくなりがちになるので注意が必要。

図 2-3 「座席の配慮」

1 カーテンやパーティションで区切った個別スペースの確保

集中して課題に取り組むために、カーテンやパーティション等で空間を区切り、刺激量を調整することが必要です。児童生徒が個別学習の形態で取り組むことも必要な場合があります。

どのような環境が落ち着くのか、集中できるのかを把握することも大切です。



図 2-4 「カーテンで仕切られた学習空間」



図 2-5 「段ボールを利用したパーティション」
使用しない時には、たたんでしまえます。

<特別な教育的支援を必要とする児童生徒への効果>

煩雑な学習環境や学習に不必要な刺激が多々ある状況は、誰にとっても注意・集中の妨げになりがちです。

中でもADHD（注意欠陥多動性障害）の児童生徒は、目や耳から入る様々な刺激の中から不要なものを除き、自分にとって必要な情報に注意を向けること（選択的注意）が苦手です。過剰に刺激を拾ってしまうため、情報を整理し、自己の行動をコントロールすることが困難な状態といえます。それは、決して本人が不真面目であるとか辛抱強さが足りないというのではなく、脳の機能の特性から来るものです。

注意・集中が苦手な児童生徒にとっては、余計な刺激の少ない教室環境、具体的には、すっきりとした黒板周り、静かさなどが、特に注意・集中のしやすい適切な学習環境と言えます。